

大韓数学会 70 周年記念に参加して

日本数学会理事 小菌 英雄

2016年10月21日(金)～23日(日)の日程で、大韓数学会の70周年を記念する式典がソウル国立大学で開催された。日本数学会にはこの式典を共に祝うという主旨で、理事の参加と5つのセッションを日韓で共催という形で運営することが大韓数学会から要請された。それに応えるべく、小谷元子理事長のほか、小磯深幸理事、徳永浩雄理事および筆者が参加した。

共同開催のセッションとその日本数学会からの組織者及びそれに関係する招待講演者は以下の通りである(敬称略)。

1. Representation Theory

有木進(阪大) オーガナイザー

Hellerlattices and Ar quivers

落合啓之(九大)

Covariant differential operators and Hackmann-pdam hypergeometric systems

2. Algebraic Geometry

小木曾啓示(東大) オーガナイザー

Higher dimensional projective manifolds with primitive automorphism of positive entropy

戸田幸伸(東大)

Copakumar-Vafa invariants via vanishing cycles

3. Functional Analysis

小澤徹(早大) オーガナイザー

Uncertainty relations in the framework of equalities

松井宏樹(千葉大)

Topological full groups and C^* -algebras

4. Symplectic Topology

小野薫(京大) オーガナイザー

Lagrangian Floer theory - generation criterion for Fukaya category and related topics

赤穂まなぶ(首都大)

Symplectic displacement energy for exact Lagrangian immersions

野原雄一（明治大）

Integrable systems on Grassmannians and mirror symmetry

5. Mathematical Biology

稲葉寿（東大） オーガナイザー

The legacy of Kermac and McKendric again

岩見真吾（九大）

Modelling virus dynamics: implications for therapy

谷口雅治（岡山大）

An (N-1)-dimensional convex compact set gives N-dimensional traveling front

瀬野裕美（東北大）

Mathematical modeling of metapopulation dynamics: Revisiting and expanding its meaning

若野友一郎（明大），巖佐庸（九大）

The effect of stochasticity in adaptive dynamics

これらに先立って、初日の 10 月 21 日に 3 つの基調講演が開催された。そのうちの一つは、森重文先生による以下の講演だった。

Shigefumi Mori (RIMS/ Kyoto Univ. Inst. Advanced Study)

Rational curves algebraic varieties – minimal models and extremal rays

全体のセッション数は 22 であり、日本数学会の分科会・特別セッションよりは多いが、一つ一つのセッションの規模は 3 分の 1 程度という印象を受けた。

70 周年記念独自の催しと見なせるのは、Opening ceremony, Group photo, Ceremony for KMS 70th anniversary, Conference dinner の 4 つであった。

Opening ceremony において、冒頭の挨拶は大韓数学会の元理事長によって行われ、筆者には年長者を重んじる韓国のお国柄が表れているとの印象をもった。続いてソウル国立大総長の祝辞の後、現大韓数学会理事長 Yong Hoon Lee 氏のスピーチ等大学関係者によるものに加え、韓国科学技術



庁長官など 3 人の政府要人による祝辞が披露された。日本数学会も 2016 年 9 月に関西大学での秋季総合分科会において、70 周年記念企画を理事会主導で行ったが、政府や地方自治団体の来賓を招くことはなく、両国数学会間のカルチャーの違いを垣間見た。

Group photo においては、設立 70 周年を迎え、更に未来に発展する大韓数学会を祈願し、参加者全員は拳を振り上げたポーズでシュプレヒコールをする様に要請された。このことから分かる様に、大韓数学会は一つの目標に向かって学会会員全体の意識の高揚を重視している様である。

実際、このことは一時間に渡って企画された Ceremony for KMS 70th anniversary で顕著に現れていたように思う。同企画では、70 年間の大韓数学会の歴史を 3～4 期に分けて回顧したビデオが放映された。その中で特に強調されていたのは、何と云っても 2014 年の国際数学者会議をソウルで開催した成果であった。朴槿恵大統領も来賓として出席し、同 ICM2014 を支援するなど、韓国の国を挙げての行事であったことを、映像を交えて力説していた。その他、SCI ジャーナルへの掲載数の向上、BK21(Brain Korea 21)による世界的なレベルの大学院育成と優れた研究人材育成政策の成功、ICM2014 を筆頭に AMC2013 等の国際研究集会や IBS, KIAS, NIMS 等の国際共同研究機関による世界に向けた情報発信源としての韓国の指導的役割について高い評価を与えていた。その様な雰囲気の中で、森重文先生は国際数学連合 (IMU) の総裁として祝辞を述べられ、ICM2014 開催の尽力に対する謝辞と日韓数学会の交流の重要性に言及されていた。

Conference dinner においては、小谷元子理事長が日本数学会を代表してスピーチを行い、この 70 周年の大韓数学会の成功を称え、同時に 2011 年の東日本大震災における同学会の日本数学会への支援に深謝した。(前頁写真は小谷理事長と Lee 大韓数学会理事長)

筆者も韓国に共同研究者、友人が少なからずおり、大韓数学会に親近感がある。今年度に 70 周年記念を迎え今後の益々の発展を祈ることで、この報告書の結びとしたい。

参考 <http://www.kms.or.kr/fall2016/>